

# ポスターセッション

事例発表団体や、県内外の自治体、生涯学習団体、NPOを中心にポスターを展示します。エントランスホールにメインフォーラム開催期間中の2日間にわたり行いますのでご覧ください。

## 1 岩手高等教育コンソーシアム

東日本大震災津波により三陸沿岸地域は甚大な被害を受けました。いわて高等教育コンソーシアムでは、この震災を乗り越え復興を果たすため決意を新たに「いわて高等教育コンソーシアム学長宣言」を発出しました。1日も早い震災からの復興を目指し、様々な復興支援活動や地域復興を担う人材の育成に向けた取り組みとして、主に4つのカテゴリーで展開しています。



## 3 富士大学福祉・ボランティア研究センター

東日本大震災以後、災害復興支援学生ボランティアを組織し、ボランティア活動を単位化する環境を整備しました。また、教職課程を履修する学生に対しては、岩手県教育委員会との協定による教育ボランティア「スクールトライアル」でも、ボランティア精神を修養することができるように支援し、平成23年度は本学独自の教育ボランティアにも着手しています。



## 5 岩手県立生涯学習推進センター

生涯学習推進センターは、本県生涯学習推進の中核機関として、平成8年の開所以来、県民の学習活動を支援、促進するため、生涯学習に関する情報提供、調査研究及び指導者養成等の事業を総合的、効果的に推進するとともに、市町村及び関係機関・団体との連携強化に努めています。今年度は、全国生涯学習ネットワークフォーラムを開催し、併せて「大学生を主体としたフィールドワークによる復興支援の実証的検証」「震災復興のためのNPO等との連携に関する調査研究」を進めています。



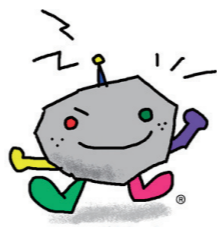
## 7 盛岡市

国際的な児童図書編集者・末盛千枝子さんから「被災地で心の傷を負った子どもたちへ絵本を贈ろう」という提唱をうけ、盛岡市中央公民館を拠点として、NPO団体や管内教育事務所の参加により「3.11絵本プロジェクトいわて」に取り組みました。震災後の3月24日から活動開始、同月31日からボランティアによる作業を始め現在に至っております。全国からの協力により集まった絵本は、平成25年2月末までに23万冊に達しました。



## 2 国立大学法人 岩手大学

2012年、三陸復興推進本部を発展的に改組し、全学組織として「岩手大学三陸復興推進機構」を設置しました。機構は、旧推進本部の6部門体制を踏襲しつつ、被災地に設置した「釜石サテライト」と連携し、三陸地域への継続的な復興支援の活動を行います。なお、12年度中には、釜石サテライトを拠点とし、「久慈エクステンションセンター」、「宮古エクステンションセンター」、「大船渡エクステンションセンター」を設置し、沿岸地域との連携体制を強化しました。



## 4 三陸みらいシネマ

震災から2年半が経とうとする今、復興の街作りに地域から求められている役割も少しずつ変わってきています。主に被災者のメンタルケアを目的として映画上映を行ってきた私たちは、「シネマメール東北」で築いた地域社会との繋がり、市民のみなさまへの感謝と地域の再生への想いを込めて、2014年度からの3か年の復興への取り組みとして、三陸地域の将来を担う子供たちの創造力と表現力を養うESDの取り組みとして「三陸みらいシネマ」を計画しています。



## 6 岩手県教育委員会 県南教育事務所

世界遺産「平泉の文化遺産」についてその概要や価値を地域の歴史と関連させながら説明し、児童の興味・関心・理解を促すとともに、郷土に誇りを持ち、文化財を愛する態度を養うことを目的に、県南教育事務所では平成24年より、希望する管内小学校を対象に社会教育主事が出向き、世界遺産「平泉」出前教室を実施しています。



## 8 盛岡市

被災した沿岸市町村では役所が被災しているところも多く、震災後の対応のために職員数も不足しており、生涯学習事業や社会教育事業が思うように実施できない状況になっています。これを受け盛岡市中央公民館は、内陸部を中心とした広域的な絆をさらに強め、被災地の復興を全力で支援し、内陸と沿岸の絆を将来にわたりしっかりとしたもの育てていくため平成24年度から出張公民館事業・講座に取り組みしています。



## 9 八幡平市

教育振興運動として、伝統芸能保存・継承に取り組んでいます。市の無形文化財指定19団体のうち、児童・生徒が活動に関わっている剣舞・田植え踊り・神楽・先払いなどの10団体から、指導者育成事業に取り組んでいただいているほか、伝統芸能に関するワークショップや、子ども伝統芸能フェスティバル事業を実施しています。



## 11 葛巻町

平成25年度は、本町が生涯学習の町を宣言してから20年目の大きな節目を迎える年であり、これまでの取り組みの総括と、今後更なる飛躍につながるよう、さまざまな記念事業を開催するとともに、町づくりの目標である「幸せを実感できる高原文化のまち」の実現を目指し、生涯学習事業の一層の推進を図っています。



## 13 北上市

北上市では、子供会や自治会等からの注文に応じて、様々な分野の担当者が専門知識を生かした講座を、会場に出向いて行う「北上市生涯学習まちづくり出前講座」(205×2ニュー)を平成13年度から実施しています。講座担当者は、市役所各課だけでなく、警察署等の公共機関、市民団体や個人講師にも多く協力いただいています。



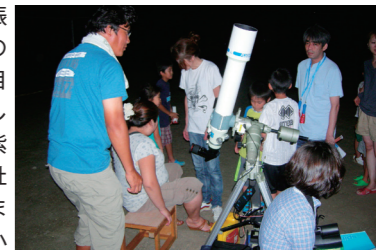
## 15 西和賀町

西和賀町では、高齢者の社会参加と生きがいづくりを目的に60歳以上の方を対象にした演劇講座「シニア(高齢者)演劇事業」を開催しています。受講者は、公募により町内外から集まってきた方々で、全員がキャストとして配役され、脚本家により書き下ろされた劇作品を上演します。延べ30回程度の稽古を重ね、銀河ホール地域演劇祭や、北上市や横手市、沿岸被災地での公演も行っています。



## 17 一関市立室根公民館

青年たちが、地域貢献活動や自己学習の機会を通して情報交換や仲間づくりを行いながら、年齢にふさわしい知識や能力を高めるとともに、地域活性化の推進及び地域づくりのリーダーを育成するため、「青年ふれあい塾」事業を実施しています。参加する青年たち自身が運営委員として、自ら企画立案・運営して地域貢献活動やまちおこし活動、青年同士の情報交換や自己学習に取り組んでいます。



## 10 紫波町教育振興運動推進委員会

紫波町では、県の教育振興運動と連携し、地域の課題に密着した運動を目指して活動を開始しました。昭和59年からは紫波町独自の中高生の「社会参加活動」が始まりました。現在11の実践区(小学校区)に分かれ、地域に根差した活動を展開しています。教育振興運動が、子どもたちの生きる力を育むとともに、関わる大人の生涯学習の場となり、地域づくりにも寄与しています。

## 12 花巻市

花巻市では、平成19年度から市内の小中学校区単位を基本に26の振興センターを開設し、地域住民がその地域ごとに組織した「コミュニティ会議」を核として、地域の課題を自ら考え、行動し、解決する仕組みづくりや、振興センターに配置された職員がその支援に取り組み、都市内分権構築によるまちづくりを具体化する仕組みの一つとして「小さな市役所構想」をスタートさせました。



## 14 遠野市民センター

遠野市は、柳田國男の「遠野物語」で全国的にその名が知られるようになりましたが、当市には、柳田國男と交流のあった遠野市土淵町出身の佐々木喜善の「聴耳草紙」や、語り部たちによる口承民話など多くの昔話が伝わっています。この昔話や当市の歴史などを題材に、市民が脚本からキャスト、スタッフまで全てを担い、舞台化するのが「市民の舞台 遠野物語ファンタジー」です。



## 16 奥州市

中学生の読書離れへの対策として、奥州市及び金ヶ崎町の読書ボランティア団体の集合組織である「胆江ゆめネットワーク」の全面的な協力を得て、中学校で毎朝行われている朝読書の10分間にボランティアが絵本等の読み聞かせを実施。中学校側からも好評を得ており、本年度4年目を迎えています。

